

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数
1. 理念の共有	11
2. 地域との支えあい	2
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	1
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	3
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2370800514
法人名	敬愛 有限会社
事業所名	瑞穂ケアセンターそよ風
訪問調査日	平成20年2月28日
評価確定日	平成20年3月31日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

〔取り組みを期待したい項目〕

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

〔取り組みを期待したい内容〕

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年4月2日

【評価実施概要】

事業所番号	2370800514
法人名	敬愛 有限会社
事業所名	瑞穂ケアセンターそよ風
所在地	名古屋市瑞穂区大喜新町4-36 (電 話) 052-882-0008

評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7 A		
訪問調査日	平成20年2月28日	評価確定日	平成20年3月31日

【情報提供票より】（平成20年2月10日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 13人, 非常勤 5人, 常勤換算 6.4人	

（2）建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	3 階建ての 2～3 階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	63,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円
敷 金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (500,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,400 円		

（4）利用者の概要（平成20年2月10日現在）

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	10名	要介護2	3名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	1名		
年齢	平均 84.4 歳	最低 70 歳	最高 93 歳		
協力医療機関名	いしはらクリニック				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

1階はデイサービスセンターが併設されており、2、3階がグループホームとなっている。オーナーが住職で先人への感謝の気持ちと恩返しとして「無財七施」を理念に掲げている。職員は「笑顔として・・・」をモットーに、コミュニケーションを大切に支援している。この1年間に、職員の交代が続き家族からも心配の声が寄せられていた。家族会を通してホームと家族がお互いの思いや意見を話し合い、日々改善に取り組んでいる。現在は、職員体制も落ち着きつつあり、運営者を初め職員が一丸となってよりよいサービスの提供に努めている。若い職員は、入居者に教えていただくという姿勢で接し、まずその人を理解することに努力している。先輩職員は入居者との信頼関係をさらに深め、共に助け支え合う関係を築くよう努め、職員の育成にも励んでいる。男性職員が多く、入居者は「心強くて安心」と話されていた。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	前回の評価の課題については、運営者と管理者が協議し改善事項を明確にした。その後に職員と話し合い、優先順位を決め改善に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
重点項目②	自己評価は全職員が取り組んだ。評価を振り返りの機会として捉え、自己評価を進める中で、グループホームに求められている項目を知ることができたという声もあった。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6）
重点項目③	家族代表、区政協力委員、民生委員、オーナー、センター長の参加のもと、2カ月に1回開催している。会議では外部評価について報告し改善方法についても書類で提出している。ホームの年間予定や取組み状況、職員の異動、地域との交流の進め方など報告している。メンバーからも積極的に意見をいただき、地域から必要とされるホームづくりを目指して取り組んでいる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8）
重点項目④	家族会を2カ月に1回開催しており、この1年間に職員の交代が続き、家族からも心配の声や要望が多くあげられた。家族の要望に対してホームとしてどう対応していくのかを文章で提出した。苦情相談窓口や外部の相談窓口について、入居時に説明を行っている。また、玄関に苦情ボックスを設置している。
	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	近所の神社のお祭りに参加したり、近くの喫茶店を利用することで、馴染みの関係になっている。散歩時には地域の人との挨拶を心がけている。踊りやオカリナなどのボランティアの受入れも行っている。地域の防災訓練に職員が参加したり、大規模災害時には建物の1階（デイルーム）を開放し、地域の方と連携して災害にあたるよう取り組んでいる。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念である「七施」をグループホームの理念としている。眼、和顔、言辞、身、心、床座、房舎の7つの施は代表の想いを表しており、先人への感謝の気持ちや地域の方へ恩返しをしたいとホームを立ち上げた経緯がある。地域から愛される事業所でありたいと理念を念頭におきながらケアの提供に努めている。	○	現在掲げているホームの理念に加え、地域密着型サービスとしての役割も理念に反映させ、明文化されることを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は職員に分かりやすいよう具体的に話をしている。身をもってできること、心のある関わりなどコミュニケーションの大切さを日常的に伝えている。コミュニケーションは話すことだけではなく、寄り添うことも大事であり、本人にどこまで寄り添えるか、入居者の「その時」を大切にケアに努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所の神社のお祭りに参加している。また、近所の喫茶店を利用することで馴染みの関係になっている。散歩時には、地域の人との挨拶を心がけている。以前、施設の1階のデイサービスセンターのフロアを利用して、地域の方を招いてカラオケ大会を開催したが入居者の参加がほとんどなかったこともあり、地域からもアドバイスをいただき、関わり方については今後の課題としている。	○	ホームの現在の状況としては、内部の体制を整えている段階であり、地域との交流は今後少しずつホームのできることを進めていきたいと考えている。地域の方からのアドバイスをいただいていることから、今後の取り組みに期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価は第三者の客観的な視点であり、ホームを振り返るよい機会として前向きに捉えている。前回の評価の課題については、運営者と管理者が協議し改善事項を明確にした。その後に職員と話し合い、優先順位を決め改善に取り組んでいる。現場で働く職員の意見を大切にし、業務内容や方法を改善できることは、試行錯誤しながら取り組み、職員が業務優先ではなく入居者優先にケアができるよう進めている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、外部評価について報告し改善方法も書類で提出している。ホームの年間の予定や取り組み状況、職員の異動について、地域との交流の進め方などを報告している。メンバーからも積極的に意見をいただき、地域から必要とされるホームづくりを目指して取り組んでいる。災害時には地域の独居の方が一時避難できる場所として、建物の1階（デイルーム）を開放してほしいと地域からの要望もあり、地域の資源として活用できるよう検討している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市には書類の申請で出向いた時に、分からないことを質問したり、情報をうかがったりしている。また、電話で相談するなど、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を实践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問が多く来訪された時には、入居者の様子や状況を職員が説明している。記録を閲覧される家族の方もいる。毎月通信を発行しており、ホーム全体の様子（食事づくり、行事風景など）や、入居者個人の近況を写真とコメントを記し家族に送付している。個人欄には、「その人のその時その瞬間」を載せており、家族からも好評で喜ばれている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を2カ月に1回開催しており、この1年間に職員の交代が続く家族からも心配の声や要望が多くあげられた。家族の要望に対して、ホームとしてどう対応していくのかを文書で提出した。毎回会議資料を作成し、質問に対してその場で回答できることはしている。欠席された家族には郵送し、質問を受けている。会の内容として、職員の異動状況や入居者の状況、運営推進会議について報告をしている。管理者は家族アンケート結果を家族の声として真摯に受け止め、今後も改善に向け取り組んでいきたいと考えている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が働きやすい、やりがいのある職場環境をつくっていききたいと職員に業務アンケートを取った。職員からはいろいろな意見があがり、具体的にどう改善に向けて取り組んでいくのかを話し合った。職員が退職する場合は、管理者が入居者の状態を考慮しながら一人ひとり説明をしている。新しい職員が入ると、先輩職員が付き添い入居者に不安やダメージを与えないよう配慮している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員は、入職後すぐに現場に入り実地指導を受けていたが、現在は管理者がオリエンテーションを実施し、理念についてや認知症について話しをしている。また、コミュニケーションの重要性や、関わり中心のケアについても伝えている。外部研修には、おおむね月1回参加しており、参加後は報告書を記入しているが、報告する機会は設けてはいない。今後は、現場で出た課題などを話し合うなど、内部研修を実施していきたいと考えている。	○	各職員の考えや感じたことを話し合い、議論することで新しい気づきや、共感、信頼関係ができてくる。職員が働きやすく、やりがいのある環境づくりには、職員が力を合わせ、目標に向かってどう取り組んでいくのか、仕組みづくりが重要であり、学んだことが実践に活かせるよう今後の取り組みに期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名古屋市グループホーム協会に加入している。勉強会には職員も参加することはできるが、現在は参加までには至っていない。グループ会社のホームの研修に参加する機会はある。定期的ではなく、状況に応じて参加している。	○	他のホームの職員と交流や意見交換する機会として重要性を認識している。ホームの状況を考慮しながら、臨機応変にネットワークを活用し、サービスの質の向上に取り組まれない。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	グループホームは生活の場であることから、家族にも理解していただいた上で入居してもらえよう説明している。併設のデイサービスセンターを利用してからグループホームに入居されるケースが多く、本人にとっても通いながら馴染んでいくことができる。また、本人をよく知ることでその後のケアがスムーズで本人や家族の安心にもつながっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	業務優先ではなく、入居者優先のケアに取り組み、忙しい時ほど、入居者に助けてもらっている。職員がすぐに手を差し出すのではなく、本人の気持ちを受け止めその人に合った声かけをすることで、気持ちよく行なってもらえるよう心がけている。食事づくりや掃除、買い物などの家事を入居者と職員が一緒に、教えてもらったり、怒られたり、笑いあうなど共感し支え合っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にアセスメントをとっているが、日常の生活の中で新たに発見したことなどは、随時更新している。本人の意向を把握するには、コミュニケーションが重要であり、入居者にとって心地よい空間をつくりだすこと、声のトーンやタイミング、話し方などを申し送りや会議の場で職員は情報交換している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者本人の希望を反映した介護計画になるよう、計画内容を具体的に表現するよう努めている。入院を避け、ホームで暮らしたいという本人の希望に対して、健康維持の支援として、体操への参加や散歩に週何回行くなど日常生活の中で取り組めるよう計画を立てている。本人、家族の意向を基本として、職員の普段の関わりの中で得た気づきなどを計画作成担当者が取りまとめ、それぞれの意見や気づきを反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しを行う前に職員から問題点を書いてもらい、情報を収集して、3カ月に1度見直しを行っている。申し送り時に何か変化があれば、その場でケアカンファレンスをしている。また、状態の変化や本人、家族の要望に応じて見直しを行っている。家族には来訪時に確認してもらっている。個々の介護計画の浸透を図るため、朝の申し送り時に入居者の希望を職員間で確認している。	○	申し送り時にミニカンファレンスを行っているが、カンファレンスや計画に対する達成状況（モニタリング）の記録などは残されていない。入居者の心身の状態の変化や計画目標に対する状況など記録として残すことにより、経過がよく分かり、見直しが必要かどうかの判断材料にもなるので取り組みを期待したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	訪問看護ステーションと契約して、週に1回健康管理の訪問と、24時間連絡可能な医療連携体制を行っている。また、希望者に対して訪問リハビリで1日4～5名の入居者がマッサージを受けている。病院への受診は基本的に家族にお願いしているが、困難な場合はホームで対応している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医療機関の他に、本人や家族が希望するかかりつけ医でも受診することができ、家族と協力して通院介助を行っている。協力医との連携、協力体制が十分にとられており、医師が看護師との連携や救急搬送の時、病院に連絡をとるなど、本人や家族、ホームの要望を大切にしながら医療支援をしている。月2回内科医の往診があり、何かあればすぐに対応し、家族会で家族の質問に答えてくれるなど、家族の安心につながっている。歯科医の訪問も支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化した場合の対応に係る指針について説明を行い、同意書を得ている。看取りに対する指針を定め、現場の職員間で納得がいくまで話し合い、家族、医師、看護師、職員で体制を整え、2月に2人の方を看取られた。「家族から委ねられ、家族を含めた介護で最後までお付き合いできたことに感謝したい」との言葉が管理者からあった。家族との信頼関係、医療機関との密な情報交換と連携、現場で支える職員の努力など、それぞれがその人らしい生活の中で終末を迎えてもらいたいと願い、チームで支援していくことで看取ることができた。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の関わりにおいて、職員は自分がされてどうだろうかと考え、入居者の誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。入居者の安全確保のため、食事の摂取量や日常の様子などはフロアで記入しているが、事故や苦情、プライバシーに関する書類は事務所からの持ち出しを禁止している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら支援している。訪問時には居間で昼食の準備や、新聞を読んでいる方、居室でぬり絵をしている方がいて、その日、その時の本人の気持ちを大切にしている。また、地域のバドミントンサークルに参加している方がいて、活動日には出かけている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関しては外部の事業所を利用し、決められた献立で食材は前日に配達される。その日のメニューを入居者がホワイトボードに書いている。食事の準備(調理、盛り付け、配膳)を職員と一緒にいき、下膳は各自で行っており、ランチョンマットを敷いて職員と一緒に会話をしながら楽しく食事をしている姿が見られた。入居者が苦手なメニューの時には別の物を提供している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には毎日入浴できるが、現在は1日置きに入浴している。浴室には家庭用の浴槽が2個設置され、寛いだ気分で入浴できるように入浴剤を入れたり、仲の良い入居者同士、誘いあって一緒に入浴されることがある。衛生面から1回1回浴槽を洗い、湯を交換している。入居者が入浴を拒否する場合には、入りたくない理由を探り、声をかけながらタイミングを合わせ入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活する中で新聞の片付け、ベランダの花の水やり、食事作り、掃除など入居者が自分で役割を見つけ出して行っている。入居者の経験や知恵を発揮できる、おにぎり作りや裁縫などの場面もつくっている。テレビや新聞の広告を見て、「ここ行ってみたいな」「これ食べたいな」と会話から要望が出た時には、できるだけ実現できるよう取り組んでいる。希望者を募り小旅行(日帰り)として「なばなの里」に出かけ入居者は楽しまれた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日はなるべく近くの神社や喫茶店など散歩に出かけている。1人で外出できる入居者はいつでも自由に散歩に出かけている。年に1~2回家族参加の小旅行を実施している。	○	全員での外出支援はあるが、その日の入居者の状況に応じて、一人ひとりの希望にそって外出できる個別対応支援の取り組みを期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は自動ドアで施錠されていない。居室のドアは内側から鍵をかけることができるので、夜に鍵をかける入居者が数人いる。帰宅願望のある入居者には止めるのではなく、さりげなく声をかけたり、一緒に外に付いて行くなど、その時々に合わせて対応している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成して年に1回避難訓練を行っている。訓練終了後に職員にアンケートを書いてもらい、意識や状況に応じた判断ができたかを確認している。また、近隣の小学校で行われる地域の防災訓練に職員が参加している。災害に備えて飲料水、食料は入居者数の3日分保管している。設備点検は業者に依頼して行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの1日の食事摂取量を記録し、職員が情報を共有している。献立や食材は外部の業者を利用しているので、栄養素（カロリー、たんぱく質、脂質、炭水化物、塩）の計算がしっかりとされている。箸やスプーンなどは本人が使いやすいものを使用している。また、とろみ剤の使用やおかゆなど個別に対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は日当たりが良く、大きな窓から季節感を感じ取る事ができる。壁には入居者と一緒に作った大きな布のカレンダーや季節柄お雛様の絵が飾られていた。くつろぎスペースとしてテレビの近くにソファが設置され、ゆったりと会話を楽しむことができる。大正、昭和時代の道具（足ふみミシン、蓄音機、米の年表など）を置いてある畳の部屋があり、入居者と一緒に見ながら話が弾むことがある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入口には住所と名前が書かれた大きな表札があり、好みののれんがかかっている。部屋には造り付けの大きな収納棚と机があり、整理整頓がしやすくなっている。使い慣れた椅子、テレビ、ラジオなどを置き、壁に家族の写真やカレンダーなど飾ったり、観葉植物を置くなど、それぞれ居心地よく暮らせる工夫をしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。